

夏ダイコン新品種

なつめぐり

「夏巡り」

(試作系統名 RA-247)

の特性と栽培のポイント

雪印種苗株式会社

園芸作物研究グループリーダー

松井 誠二



1.はじめに

夏～秋に栽培する夏ダイコンは、北海道から九州まで全国の様々な産地で栽培されています。この時期は栽培条件に最も左右され、高温、干ばつ、長雨、台風、ゲリラ豪雨の被害を受けやすく栽培が安定しません。さらに輪作体系によって残肥、地力差がかなり異なり、品種選定がより難しくなっています。

「夏巡り」は、夏ダイコンの中でも肥沃



▲写真1 肥沃な土地で特性を発揮する「夏巡り」

な条件で特性を発揮する品種であり、その特性と栽培のポイントをご紹介します。

2.「夏巡り」の品種特性

＜軟腐病に強く、肥沃な土地に適した夏系品種＞

- ①草勢は中～小位でおとなしく、半開張性の濃緑色です。
- ②ウイルス、軟腐病、萎黄病、横縞、裂根に強く、出荷の歩留りが比較的高いです。
- ③抽苔はやや晩抽性で高冷地での抽苔の心配が少ない品種です。
- ④耐暑性は比較的強く、高温期でも曲がり少なく、根形がくずれにくいです。

⑤太りはやや遅く、57～60日で根長36cm、根径7～7.5cmに揃います。

⑥青首が薄く、す入りが遅いので、青果、加工用出荷に向きます。肉質はやや硬めです。

3.「夏巡り」の適作型での

栽培のポイント

1)北海道、東北、高冷地

- ①施肥は、10aあたり成分量で窒素7kg、リン酸15kg、カリ10kgを目安とし、各産地の施肥基準量よりもやや多めとします。また、Ca、Mg、微量元素(ホウ素等)入り肥料を使用するようにして下さい。

栽培作型

●—●：播種期 ■：収穫期

地域	作型	6月	7月	8月	9月	10月	11月
北海道 東北 高冷地	マルチ・露地		●—●	■			
一般地 暖地	マルチ・露地			●—●	■		



▲写真2 「夏巡り」のシルバーマルチ栽培

高温期の栽培になりますので品種によっては葉勝ちとなり、軟腐病や曲がり心配して肥料を減らす場面が見られますが、本品種は葉がおとなし目で、軟腐病に強く曲がりや裂根が少ない特徴があるため、肥料がやや多めでも出荷できる本数(歩留り)が下がる心配は少ないです。

(写真3、4参照)

逆に地力が足りなかったり、肥料が流亡しやすい条件では葉がおとなしくなり過ぎて、生育が遅れて内部変色の原因となる場合がありますので、圃場選定には留意して下さい。

なお、内部変色対策の一助として、弊社のホウ素供給専用肥料『B作』(47ページ)の使用が有効です。生育状況に応じて散布して下さい。

- ②マルチ、露地ともに栽培に適しますが、マルチはシルバーマルチとし、株

間は23~27cmを基本とします。排水不良が心配される圃場では高畝栽培とし、生育が停滞しないように留意して下さい。生育日数は肥沃条件では53~57日が目安となり、順調な生育を示します。播種が遅くなるにつれ生育後半の気温が下がり、生育日数が60~70日前後を要しますので、加工用途などでは必要に応じて追肥を行って下さい。

- ③高冷地などでは、乾燥やゲリラ豪雨などの繰り返しにより葉に病害が発生する場合があります。近年、問題となっている黒斑細菌病もその一つです。生育初期から殺菌剤防除を徹底すると共に、生育後半が肥料切れにならないように管理して下さい。
- ④収穫、洗浄後はしっかりと予冷処理をしてから出荷するようにして、内部品質の安定に心がけてください。

2)一般地、暖地

- ①施肥は10aあたり成分量で窒素4~7kg、リン酸15kg、カリ10kgを目安とします。播種が遅くなるに

